

自然環境調査報告書第 16 集にあたって

早川直美

(トトロのふるさと基金 調査部会)

トトロのふるさと基金がナショナル・トラスト活動をはじめてから 30 年たち、トラスト地は現在 56 カ所と増えた。『トトロの森』という名称も SNS の活用等で、世界に拡散されつつある。しかしながら、狭山丘陵を愛し守りたいという想いは、実はトトロが生まれるずっと前からあった。私たちは、その想いを受け継ぎ、後輩につなげたいと活動している。

トラスト地は 56 カ所と増えたが、現地を歩き、その雑木林の成り立ちを知り、そこに暮らす生き物を知り、ごみ拾いや草刈りをする、その活動は変わることはない。そして、そこから多くの気づきを得ている。

この報告書は、それらの気づきや狭山丘陵を大切にしたいという想いを表せる場であると考えられる。今回も、初めて調査に参加する方、初めて報告書を書く方、いろいろな方にいろいろな立場で関わっていただいた。そこにある『狭山丘陵が大好き』という気持ちを、受け止めていただければ幸いである。これからも、投稿規定を参考に、多くの方から楽しい記録を寄せていただけることをお願い申し上げます。

コロナ禍により、トトロのふるさと基金の活動も大きく影響を受け、調査部会も活動を自粛せざるを得なかった。しかし、これまで継続してきた調査から、たくさんの方に報告書を書いていただけることとなった。みなさまに厚く御礼申し上げます。

謝辞

トトロのふるさと基金の活動において、早稲田大学自然環境調査室の竹内大悟氏、ところざわ地域の自然グループとグリーンフォレストネットワーク所沢の共同代表である大堀聡氏、トトロのふるさと基金評議員の関口浩氏に、大変なご支援とご協力をいただいた。この場を借りて、深く感謝申し上げます。